

題名「四十七通目の手紙」

再生時間 8分00秒

一、制作意図

徳島市立高校の四宮先生は、教員になる前、3年かけて世界中に自転車で手紙配達をされたそうです。私たちには今は経験できないことですが、先生の思いや努力に少しでも近づけるよう、旅を再現してみました。そして、授業等で私たちにたくさんの事を教えてくださった先生への私たちの気持ちをこめて作りました。

二、台本文

(①効果音「心臓の鼓動」)

(②楽曲「海辺の緑」)

今授業をされているのは、昨年四月徳島市立高校に赴任した四宮博樹先生です。先生には少し変わった経歴があります。

(3写真「会社時代1」)

先生は、二〇〇八年に会社を退職し、(4写真「会社時代2」)高校時代の夢だった(5「会社時代3」)自転車で世界一周の旅に出かけました。

出発を前にして(6写真「眉山と自転車」)大学時代の友人から一通のメールが届きました。

(7写真「パソコン」)旅行に行くならイタリアの友人に手紙を届けてほしい」

他にも届けてほしい人がいるのではないか。

インターネットなどで呼びかけてみたところ、(8写真「45通の手紙」)集まった手紙は四十五通。たくさんの思いを乗せて旅はスタートしました。

ところが・・・。

最初に行ったバリ島を走り始めて三日目。

(①効果音「心臓の鼓動」)

体に異変が起きます。心臓がバクバクして眠れない。気の狂いそうなほどの発作。

異国でのストレスと手紙を届けなければというプレッシャーが引き起こした。パニック障害と診断されました。

(9写真「自転車」)

わずか一カ月で旅は挫折してしまいました。

このとき先生は、

「インタビュー」

(⑩楽曲「Truly」)(11写真「遍路1」)

もう一度、自分を見つめなおすため、(12写真「遍路2」)やがて先生は四国八十八か所を歩き始めました。

(13写真「遍路3」)ある時、遍路道で出会った女性から言われたことは、

「あなたはもっと寄り道をした方がいい」

(14写真「遍路4」)

このとき先生は、ずっと心が晴れたといいます。

(15写真「北海道1」)

その後も北海道や九州へ旅をし、(16写真「北海道2」)少しずつ遠くへ行けるようになりました。

(17写真「出発1」)

そして、二〇〇九年八月、(18写真「出発2」)先生は再び自転車に乗って(19写真「出発3」)走り出しました。

(20写真「出発4」)今度は自分のために、楽しむために走ろう。

(21楽曲「ヒカレ」)(22写真「海外1」)(23写真「海外2」)

(24文章「ブログ1」)

「穏やかな日差しの中を(25写真「海外3」)人が変わって(26写真「海外4」)土の色が変わって(27写真「海外5」)空の色が変わ

って(28写真「海外6」) そんなことを考えながら(29写真「海外7」) 走っている。(30写真「海外8」) ああ(31写真「海外9」)、
なんて幸せなんだろう。(32写真「海外10」) これだこれなんだ。(33写真「海外11」) これよこれなんよ」(34写真「海外12」)(3
5地図「世界地図」)

(36動画「海外1」)(37動画「海外2」)(38動画「海外3」)(39動画「海外4」)

(40動画「海外5」)(41写真「海外13」)

豊かな自然と(42写真「海外14」) たくさんの人々との出会いの中で先生自身(43写真「海外15」)も変化して(44写真「海外16」)
いきました。(45写真「海外17」)

長い旅の中では、危険なこともありました。

(46写真「海外18」) (47楽曲「IllegalAlien」) (48効果音「風の音2」)

イランでは、

(49文章「ブログ2」)

「遠くに真っ黒な雲が見えて、(50効果音「雷」)(51写真「海外19」) ちようど空が真つ二つに割れたみたいだった。突然バババツと音
を立てて飴玉大の雹が落ちてきて、これが痛いなんて言うものでなくて。雹が生き物のように思えて(52写真「海外20」) 怖かった。」

(53写真「海外21」) また、ボツワナでは、子連れの象に遭遇しました。

(54文章「ブログ3」)

「辺り一面が動物園臭くなり、糞の主は道路わきから(55効果音「象」)(56映像「象」) こっちをじっと見ている。ああ、人間には爪も
牙もないとかそんなことを考える。(56映像「象」) 結局、車をはさんでその真横を通り過ぎた時に、その圧倒的な巨体が間近に迫り、

(55効果音「象」) 生きた心地がしなかった」

(57楽曲「風のウィルダネス」)(58写真「海外22」)

数多くの体験をしながら旅は続きました。(59写真「海外23」)

そして、(60写真「海外24」) 最初はプレッシャーだった手紙ですが、(61写真「手紙1」) 回数を重ねるうちに届ける瞬間が(62写真
「手紙2」) 旅のハイライトとなりました。

「インタビュー」(63写真「手紙3」)(64写真「手紙4」)(65写真「手紙5」)

(66写真「手紙6」)

四十五通の中には、宛先人がいない手紙もありました。カンボジアで亡くなった彼氏が好きだったアンコールワットの傍らに手紙を埋めてきてというものでした。(67写真「手紙7」)

(68写真「帰国1」)そして、二〇一二年、(69写真「帰国2」)先生は四万三千キロの旅を終えて(70写真「帰国3」)帰国しました。帰国後、先生は社会科の教師になりました。

自分の足で見てきた世界を、自信を持って子供たちに伝えたいと考えています。

先生の思いは新しい手紙となり、今度は私たちの元に届いています。

「インタビュー」

そして、今年三月。いよいよ先生との別れの時が来ました。(71楽曲「威風堂々」)

(72映像「離任式」)

正式教員として採用された先生は、新しい学校へ次の手紙を届けに行くことになりました。

(21楽曲「ヒカレ」)

先生の新しい旅の始まりです。これからも先生の旅は続きます。(73写真「四宮先生」)(74写真「自転車」)(75画像「校章」)

三、スタッフ

脚本 鏡石大地

撮影 鏡石大地・数藤菜摘

編集 鏡石大地

ナレーション 鏡石大地

ブログ朗読 出葉暉

音声 和佐菜月子・藤田ひかる

出演 栗田隆太・数藤菜摘